

## 「我が事・丸ごと」地域共生社会の到来

KHJ本部からメールで送られてきた厚生労働省の課長会議の資料によると、社会福祉法が改定され、今年の4月から施行されているとのこと。3年前の3月に起こった淡路島の事件のような・心がつぶれるような事件が起きないように、地域共同社会を丸ごと・我が事のように考えられるように社会システムを実現していくことが提唱されています。この理念が大切であることを私たちは総会資料で3年前に訴えました。

総合司会は横原求さんをお願いしました。今年の正会員数は21名で始まりました。12名が出席、委任状が8通で総会が成立しました。賛助会員さんが3名出席して下さい、総会を盛り上げて下さいました。また津山市子ども保健部健康増進課看護師の佐々木宣江様と社会福祉法人津山市社会福祉協議会次長の井上陽一郎様のご挨拶を頂き、理事長の上の挨拶の後、議長を草地浩典さんをお願いしました。なお議事録書名人には、智和譲さんと辻井卓也さんをお願いし、記録係には川島和子さんをお願いし、遂次総会の議案に添って審議して頂き、殆ど終了間際になって、お忙しい中、谷口圭三市長が駆けつけて下さいました。市長さんが参加して下さいしたのは初めてのことで、一同感激しました。議事は原案通り承認されましたことをここにご報告いたします。

私達は既に2011（平成23）年度に浄土宗の「共生・地域文化大賞」を受賞し、「みんなでつながって生きていきたい」という事業をしました。そんな時代の到来も夢ではなくなるかもしれません。（川島）



にぎわい市 5月13日

ソシオ一番街！ 焼きそば売りましょう

## カタクリの花を愛でる会 第10回トトロサロン

百花爛漫。第10回トトロサロン「カタクリの花を愛でる会」は、本格的な春の訪れを実感させる3月31日、小桁のトトロの家で行われた。

会員・家族・ゲスト18人、サロン三浦（宰務美恵子代表）関係者8人の計26人が参加。それぞれ近くの浅黄池周辺のカタクリ自生地を足運び「春の妖精」



とも呼ばれる可憐な咲き姿に目を細めた。筆者も1年ぶりに少女（孫）にあう感動の気分だった。今年は例年より1週間ほど早い開花という。

さろん恒例の食のイベントは「手作り餅を味わう」。木臼、杵を使って昔ながらの手づきに挑戦。つき手は力のある男性スタッフ（力強い女性も）が担うなど、それぞれが得意の分野で活躍した。餅は15<sup>キ</sup>（20<sup>臼</sup>）つき、最後の2<sup>臼</sup>はヨモギ餅にした。

まず、蒸した餅米を粒々が目立たなくなるまで練り、続いて2人のつき手が掛け声とともに柔らかく伸びるようになるまでひたすらつく。餅つきはつき手の力と技術が求められ、腰痛が気になる筆者はどうしても力が入らない。すぐに元気な人にバトンタッチをする、体たらく。

11時頃にはつきあがり、いよいよ試食（昼食）タイム。満員御礼がでるほどの参加者のため、一斉に席に着くのは難しいほど。数卓並べたテーブルには、つきたてにあんこや黄な粉をまぶした餅を中心に、当日早朝から女性陣が調理した総菜や汁物など、数々の御馳走がズラーと並んだ。筆者は目の当たりにしただけで垂涎の心もちになった。

1年ぶりに会えた孫（花）への感動の気持ちはどこにやら。「花より団子」よろしく、食べる前から早くも「お代わり」モード。草（ヨモギ）餅は新鮮な野草の風味と、まぶしたあんこなどの甘みがベストミックス。素朴でありながら高級和菓子に匹敵する味わい。参加者全員が一口頬張るたびに美味しい笑顔がこぼれた。

結局筆者は、完食！満腹！お持ち帰り…「ごちそうさま」でした。（横原）